

項目	内容
名称	コレウス・フォルスコリー、カリウス・フォレスコリー、コレウス [英]Coleus Forskohlii、Coleus [学名]Coleus Forskohlii、Coleus barbatus、Plectranthus barbatus
概要	<p>コレウス・フォルスコリーはインド原産の多年草本であり、熱帯地域で栽培されている。インドでは、コレウス・フォルスコリーの根を漬け物として食されているが、日本では食品衛生法に基づき、食品衛生上の危害の発生を防止する見地から特別の注意を必要とする成分等（指定成分等）」に指定されている。</p>  <p>写真提供: 広島大・医歯薬・生薬学研究室</p>
法規・制度	<p>■ 食品衛生法</p> <p>「食品衛生上の危害の発生を防止する見地から特別の注意を必要とする成分又は物であって、厚生労働大臣が薬事・食品衛生審議会の意見を聴いて指定したもの（指定成分等）」に該当する。</p> <p>■ 食品表示基準</p> <p>当該成分を含有する食品は、「指定成分等含有食品」に該当し、指定成分等含有食品である旨等の表示が義務表示となる。</p> <p>■ 食薬区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）」に該当する。
成分の特性・品質	
主な成分・性質	<ul style="list-style-type: none"> ・ジテルペン（フォルスコリンE～J、フォルスコジテルペンA～D、コレオノールB～D、1-デオキシフォルスコリン）などを含む（101）。
分析法	<ul style="list-style-type: none"> ・フォルスコリンをフォトダイオードアレイ検出器付逆相HPLCにより分析した報告がある (PMID:12852560)。 ・フォルスコリンをELSD-HPLCにより分析した報告がある (PMID:20503921)。

有効性

循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。	
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。	
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。	
生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。	
脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。	
免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。	
ヒトでの評価	骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
	肥満	<p>RCT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥満男性 (BMI\geq26) 30名 (試験群15名、平均28.7\pm8.6歳、アメリカ) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、コレウス・フォルスコリー抽出物 (フォルスコリン10%含有) 250 mg\times2/日を12週間摂取させたところ、体脂肪量の低下と骨量、血中ホルモン (遊離テストステロン) の増加が認められた。一方、体重、除脂肪体重、総テストステロン、収縮期血圧、拡張期血圧に影響は認められなかった (PMID:16129715)。 ・過体重または肥満の成人30名 (試験群15名、平均40.9\pm13.8歳、オーストラリア) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、食事制限および運動指導とともにコレウス・フォルスコリー抽出物 (フォルスコリン10%含有) 250 mg\times2回/日を12週間摂取させたところ、糖代謝マーカー (インスリン、HOMA-IR) の低下が認められた。一方、体重、BMI、ウエスト径、ヒップ径、ウエスト/ヒップ比、血圧、糖代謝マーカー (空腹時血糖)、食欲関連ホルモン (レプチン、グレリン)、血中脂質に影響は認められなかった (PMID:26593941)。
その他	調べた文献の中に見当たらない。	

参考文献

- (91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS).
[\(PMID:12852560\) J AOAC Int. 2003 May-Jun;86\(3\):467-70.](#)
[\(PMID:16129715\) Obes Res. 2005 Aug;13\(8\):1335-43.](#)
[\(PMID:18500958\) J Int Soc Sports Nutr. 2005 Dec 9;2:54-62.](#)
[\(PMID:11025139\) J Ethnopharmacol. 2000 Nov;73\(1-2\):53-60.](#)
- (33) 世界薬用植物百科事典 誠文堂新光社 A.シエヴァリエ
- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第1版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳
[\(PMID:23146043\) J Pharm Pharmacol. 2012 Dec;64\(12\):1793-801.](#)
[\(PMID:24990552\) Shokuhin Eiseigaku Zasshi. 2014;55\(2\):73-8.](#)
[\(PMID:27058630\) J Ethnopharmacol. 2016 Jun 20;186:209-23.](#)
[\(PMID:22178802\) Food Chem Toxicol. 2012 Mar;50\(3-4\):750-5.](#)
(2017195956) 日本救急医学会雑誌 2016 27(9) 574.
- (101) 健康・機能性食品の基原植物事典 中央法規
- (103) 学名でひく食薬区分リスト 薬事日報社 佐竹元吉 監修
(2013092694) 応用薬理. 2012;82(5,6):67-73.
[\(PMID:31582668\) J Oleo Sci. 2019;68\(10\):995-1002.](#)
[\(PMID:15814084\) Eur J Pharmacol. 2005 Apr 4;512\(1\):9-13.](#)
[\(PMID:26870691\) J Tradit Complement Med. 2015 Jan 29;6\(1\):130-3.](#)
[\(PMID:8558437\) J Pharmacol Exp Ther. 1996 Jan;276\(1\):238-45.](#)
[\(PMID:15459237\) J Pharmacol Exp Ther. 2005 Feb;312\(2\):849-56. Epub 2004 Sep 30.](#)
[\(PMID:26593941\) Nutrients. 2015 Nov 17;7\(11\):9508-22.](#)
[\(PMID:31902916\) Biol Pharm Bull. 2020;43\(1\):116-123.](#)